



# ライフドアすわ通信



ライフドアすわ 諏訪市地域医療・介護連携推進センター（平日8:30-17:00）

ホームページ <http://www.lifedoor-suwa.jp/>

住所 〒392-0027 諏訪市湖岸通り5-12-5（諏訪市医師会館1階）

TEL 0266-78-0477

FAX 0266-78-0478

メール [info@lifedoor-suwa.jp](mailto:info@lifedoor-suwa.jp)

ある日、お母さまはあれほど得意だった料理を作らなくなっていました。そんなお母さまと一緒に台所に立ち、横で「味噌汁を作ってるよ」などの声を掛ける料理を作ることができなくなりました。料理ができなくなったのではなく、そのプロセスを覚えておくことができないから作れなくなりました。現在起こっていることを定着させる「海馬」が傷つくと、新しい出来事を記憶することは難しくなります。自転車の乗り方や野菜を包丁で切るなど、体で覚えた技術は海馬とは別の部位に記憶され定着しているため、それらの技術は衰えていきません。

「ただ、常に隣で声を掛けることはできない。一人での人生は歩けない」と話されたことが印象的でした。

お母さまがアルツハイマー型認知症の診断を受けたばかりの頃の先生は、「母が母でなくなってしまう」と毎日泣いていたそうです。お母さまと話しても、話したことを忘れてしまうだろうなと思いつつ、ご自分の仕事の話を度々話していったそうです。

講演では、お母さまが7年前にアルツハイマー型認知症と診断され、一緒に生活する中で脳科学者である先生の視点で見えてきたことや、どのように介護をされ、どのように受け入れていったのかなど、日々の生活の出来事を通してお話をしてくださいました。



昨年12月3日、脳科学者の恩蔵紬子先生をお招きし、「母が認知症になっても感情は残っています」

「認知症になると物事が一気にできなくなってしまうイメージがありますが、細かく見るとできることはたくさんあります。」



講演の様子  
「母が認知症になっても感情は残っています」

参加された方からは、「介護をしている自分も励まされた」「言葉だけではなく、本人らしさ、大切にしていたものに目を向けた」といった感想をいただきました。

「認知症になると物事が一気にできなくなってしまうイメージがありますが、細かく見るとできることはたくさんあります。」

講演では、お母さまが7年前にアルツハイマー型認知症と診断され、一緒に生活する中で脳科学者である先生の視点で見えてきたことや、どのように介護をされ、どのように受け入れていったのかなど、日々の生活の出来事を通してお話をしてくださいました。

講演では、お母さまが7年前にアルツハイマー型認知症と診断され、一緒に生活する中で脳科学者である先生の視点で見えてきたことや、どのように介護をされ、どのように受け入れていったのかなど、日々の生活の出来事を通してお話をしてくださいました。

講演では、お母さまが7年前にアルツハイマー型認知症と診断され、一緒に生活する中で脳科学者である先生の視点で見えてきたことや、どのように介護をされ、どのように受け入れていったのかなど、日々の生活の出来事を通してお話をしてくださいました。

「認知症カフェには、認知症の方や介護をされているご家族のほか専門職の諏訪地域認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、ボランティアとして認知症サポーターが参加しています。」

「認知症カフェには、認知症の方や介護をされているご家族のほか専門職の諏訪地域認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、ボランティアとして認知症サポーターが参加しています。」

「認知症カフェには、認知症の方や介護をされているご家族のほか専門職の諏訪地域認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、ボランティアとして認知症サポーターが参加しています。」

「認知症カフェには、認知症の方や介護をされているご家族のほか専門職の諏訪地域認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、ボランティアとして認知症サポーターが参加しています。」

「認知症カフェには、認知症の方や介護をされているご家族のほか専門職の諏訪地域認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、ボランティアとして認知症サポーターが参加しています。」

「認知症カフェには、認知症の方や介護をされているご家族のほか専門職の諏訪地域認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、ボランティアとして認知症サポーターが参加しています。」

「認知症カフェには、認知症の方や介護をされているご家族のほか専門職の諏訪地域認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、ボランティアとして認知症サポーターが参加しています。」

### これからの研修・講演会のお知らせ

#### 第2回 多職種連携研修

●日時 1月20日(金)午後6時  
●演題 医療・介護従事者のためのストレスマネジメント  
●講師 諏訪赤十字病院 公認心理士 市川 悠先生  
●方法 オンライン(Zoom)  
●参加対象 医療・介護・福祉関係等の方  
●参加申込 1月19日(木)までに専用フォーム(QRコード)またはメール、電話でお申込みください。

受講料 無料

#### 医師・パラメディカル研修会

●日時 2月8日(水)午後7時  
●演題 足潰瘍3兄弟とフットケア  
●講師 諏訪赤十字病院 副院長 久島 英雄先生  
諏訪赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 野田 知子先生  
●方法 諏訪市医師会館(会場視聴)及びZoom(オンライン視聴)  
●参加対象 医療・保健・福祉関係等の方  
●参加申込 2月1日(水)までに専用フォーム(QRコード)またはメール、電話でお申し込みください。  
●その他 感染症拡大によりオンラインのみになる場合があります。

受講料 無料

#### 諏訪市歯科医師会共催 食支援多職種連携研修

10月14日に新宿食支援研究会代表の五島朋幸先生(東京都新宿区・ふれあい歯科)を講師に招いて「死ぬまで噛んで食べる」をテーマに、食支援多職種連携研修会を開催し、43名の参加がありました。

五島先生は、これまでの活動を紹介します。食支援を必要とする高齢者を「見つける」「つなぐ」「結果を出す」地域に広めるのシステムづくりが必要になるとの考えを示しました。また、地域で多職種連携を深めることで、各現場でスムーズに他職種連携につなげることができるとのお話がありました。

参加者からは、「目の前で食べている姿をしっかりと観察することの大切さを知った」「食べるということ、その人の人生を支えることにもなることを痛感した」「多職種連携のポイントは、ゆるく、楽しくであることがわかった」などの意見が聞かれました。

#### 「諏訪市地域包括ケア推進会議」にご参加ください

医療・介護にかかわる専門職や関係機関、地域の方など地域包括ケアシステムを支える皆さんと地域が抱える課題を共有し、解決に向けた話し合いを通じた多職種連携によるネットワークづくりを進めるとともに、新たなインフォーマルサービスや地域資源の開発、さらには政策の立案・提言につながる話し合いの場として「諏訪市地域包括ケア推進会議」を開催します。

お忙しい時期ですが、ぜひ参加ください。

●日時 1月26日(木)午後1時30分  
●場所 諏訪市役所大会議室(5階)  
●方法 事例を通じた地域課題の共有・検討の話し合い  
●参加対象 地域包括ケアシステムを支えるすべての関係者  
●参加申込 1月20日(金)までに専用フォームまたはメール、電話でお申し込みください。